

稼働状況や在庫、一目で

生産管理にiPad活用

池田工業 中小向けシステム

自動車部品を製造する池田工業（愛知県刈谷市、池田裕幸社長）は米アップルの多機能携帯端末「iPad」を活用した生産管理システムを開発した。2012年初めにも中小企業向けに販売を始める。生産に関するデータを入力すると生産状況が一目で分かり、問題点を洗い出し、生産計画を立てるのに役立つ。完成車メーカーの海外生産が広がるなか、新たな事業の育成で、収益の安定を目指す。

収益安定へ新事業育成

池田工業が開発した

「ものづくり見える化キット」は専用ソフトをパソコンとiPadに導入して使う。生産、在庫、不良などの台数や機械が停止した時間などをiPadで入力すると、即時にデータをグラフ化。入力したデータはパソコン

池田工業が開発した生産管理システム「ものづくり見える化キット」



類で管理している中小企業は多い。パソコンのシステムがあっても、リアルタイムの情報把握が難しかったり、一部だけしか即時の情報更新に対応していなかったりすることがある。池田工業のシステムでは、ライン責任者や生産管理担当者なども即時に稼働状況を共有できるという。

販売価格はソフトと周辺機器をあわせて40万円程度。中国語対応版も発売する予定だ。池田工業の本社工場をショールームに活用することも検討している。顧客に生産現場の「見える化」について実例を示し、開発した

システムの導入を促す。池田工業は11年3月期の売上高が約13億円。主要取引先は豊田自動織機で、売上高の約7割をカーエアコンやフォークリフトの部品が占める。

生産関連のデータを書